

古都の被爆者

— 原爆投下候補地京都における京友会の発足から現在まで —



立命館大学国際平和ミュージアムギャラリー企画展

2024年 11月11日(月) - 23日(土)

立命館大学国際平和ミュージアム1階企画展示室

広島・長崎以外で暮らす被爆者は、現在3万人を超すとされている。全被爆者の約1/3にあたるこれら「被爆地以外の被爆者」は、周囲の無理解や差別の中、被爆者としての声を各地で上げてきた。

1956年、日本被団協の結成と同年に、京都の被爆者たちは原爆被災者の会（京友会）を結成した。死没者の慰霊と生存被爆者の援護を中心にすえた、静かな運動の始まりであった。本企画では、この京友会の発足から今日に至るまでの過程を、彼ら彼女らの周囲にあった蜷川府政や空襲記録運動など府下の戦後史とともに跡付けていく。



立命館大学国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University

主催：鈴木裕貴（立命館大学衣笠総合研究機構研究員）
協力：公益社団法人 京都府原爆被災者の会（京友会）
連絡先：ssk-42@fc.ritsumeikan.ac.jp（鈴木）